グループワーク②「システムダウンに備える（その 2)」
～安否確認連絡票（医療・介護事業所用/仮）に関する意見要約～

◆グループワークの概要◆

◎災害時に連絡手段が途切れてしまうと、安否確認ができているのかどうかが共有できず、同じ対象者に複数の事業所が重複して動いてしまう。安否確認を行った事業所が、「避難が必要」と判断して避難所へ誘導した場合、その情報が共有されていないと、他の事業所は「誰が避難させたのか」「今どこにいるのか」が分からず、その後の支援に混乱が生じる。その為、**安否確認をした事業所が、次につなぐために情報を残すという考え方を例示の資料を参考にグループワークで意見交換**を実施。

◆１.総合要約（全体のまとめ）

災害時に対象者の安否を迅速に把握するため、医療・介護分野での情報共有を目的とした「安否確認連絡票」の活用について意見交換を行った。連絡票を玄関先に掲示することで訪問時の情報確認に役立つほか、区長・民生委員など地域の支援者とも共有することで安否確認体制を広げられるというメリットが示された。

一方で、個人情報保護や掲示方法、情報共有ルールの明確化が必要であるとの懸念もあり、視覚的に分かりやすい工夫や地域ネットワークの強化と併せて、運用方法の整理が求められる。

◆２.テーマ別まとめ

①　）活用方法に関する意見

- **玄関先への掲示による活用**
  連絡票を玄関に掲示することで、訪問時に不在でも「訪問した（不在だった)」という情報が関係者間で共有でき、災害時の安否把握をスムーズにする。
- **地域関係者との共有**
  区長や民生委員など、地域に関わる支援者とも連絡票の存在を共有することで、多層的な安否確認体制の構築につながる。

---

②　）情報共有の工夫

- **横のつながりの強化**
  医療・介護・地域関係者のネットワークが重要であり、連絡票がその情報共有ツールとして機能する可能性がある。
- **メモとしての活用**
  連絡票は訪問状況や気づきの記録にも活用でき、簡易的な情報伝達手段として有用。
- **視覚的に分かりやすい工夫**
  イラストや色分けなど、誰にでも分かりやすい形式での作成が効果的との意見。

---

③　）課題・懸念点

- **個人情報保護への配慮**
  玄関など外部から見える場所に掲示する可能性があるため、個人情報の取り扱い方法や記載内容の工夫が必要。
- **運用ルールの不明確さ**
  連絡票を誰が管理し、どのように共有し、どこまで情報を残すかといった具体的なルール整備が課題として挙げられた。

※参考（例示）資料「安否確認連絡票（医療・介護事業所用/仮）」

安否確認連絡票（医療、介護事業所用）（仮）

こちらの〇〇様宅（イニシャル等で記載）について、
下記の事業所にて安否確認済みです。

事業所名	
連絡先	
担当者	
状況	□けが等なし　□その他
所在	□避難所（福祉避難所）　□家族親族等宅　□病院　□施設

※本連絡票については、安否確認の後に本人が自宅を離れる場合に書き示すものとする。

連絡事項